

報道関係者各位

2021年12月8日
国立成育医療研究センター

ヒト ES 細胞の新たな細胞株を樹立
再生医療や遺伝子治療の開発、また産業分野への応用にも期待
～使用したい研究機関や企業には、無償で提供～

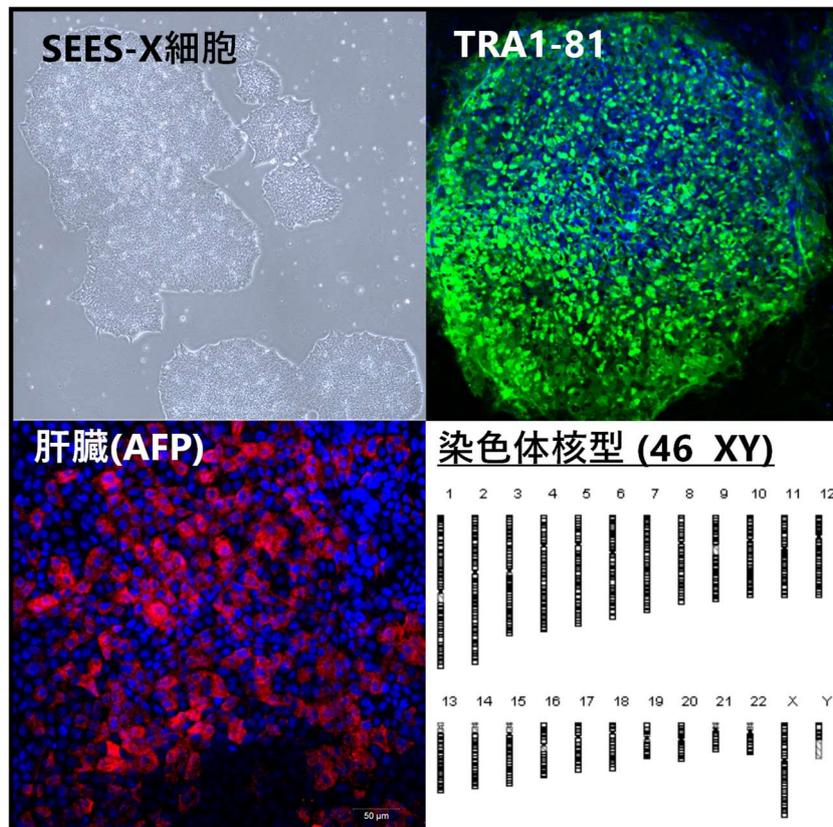
国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵、理事長：五十嵐隆）研究所の梅澤明弘所長らの研究グループは、ヒト ES 細胞の新たな細胞株を樹立しました。

今回の細胞株（SEES-X：シーズ・テン）は、2014年の再生医療関連法施行後に、当センターとして樹立したヒト ES 細胞です。これまでの再生医療開発のノウハウが詰まった ES 細胞であり、再生医療や遺伝子治療、細胞治療などへの使用だけでなく、さらに創薬開発など産業分野への使用についても、活用の幅を広げていることが特徴です。

また、ヒト ES 細胞を使用したい研究機関、企業に対して「無償」で提供いたします。

こういったことから、SEES-Xはヒトの生命科学やバイオヘルス産業の発展、あらゆるモダリティ※1のプラットフォームとしての活用寄予すると期待されています。

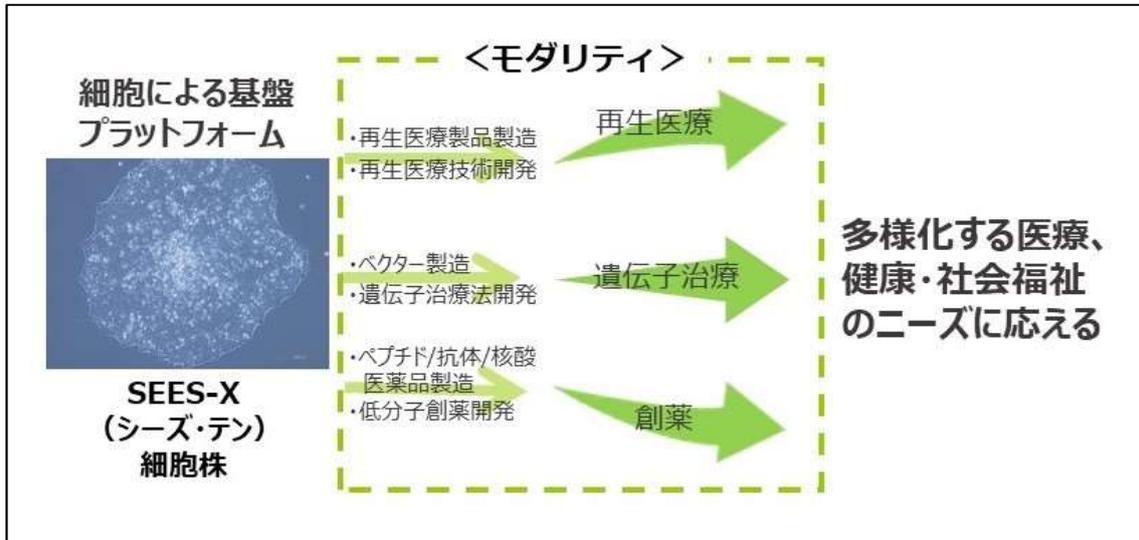
本ヒト ES 細胞は、12月2日の文部科学大臣および厚生労働大臣の報告書受理をもって、樹立達成となります。



【SEES-X の画像】

※1：モダリティ

医療や健康、社会福祉などの課題解決に対するアプローチの仕方のこと。例えば病気を治す場合、遺伝子治療や再生治療、薬など、様々な技術・方法が考えられます。その技術・方法の1つ1つを、モダリティと呼びます。



【国立成育医療研究センターのヒト ES 細胞研究】

国立成育医療研究センターは、国内に2つしかないES細胞樹立機関のうちの1つで、これまで8つのヒトES細胞を樹立してきました（SEES-1～7、およびSEES-X）。当センターは、全国から難病の患者さんを受入れ、患者さん・ご家族に対し、治療だけではなく心のケアを含めたサポートを行っています。しかし、小児難治性疾患の中には、有効な治療法もなく、成人になっても医療を受けなければいけない疾患が多く存在しています。当センターでは、ヒトES細胞を応用して、新たな治療法の開発など研究を進めています。2020年には、ヒトES細胞由来の肝細胞をヒトに移植する世界で初めての医師主導治験を実施しています。

【ES細胞（SEES-X）の使用についてのお問い合わせ】

今回樹立したSEES-Xは、無償で提供いたします。各機関が研究に使用できるよう、分配体制を整え、また分配機関への寄託も検討しています。使用には、使用計画の届け出が必要になりますので、まずは下記メールアドレスにお問い合わせをお願いいたします。

国立成育医療研究センター 研究所
 再生医療センター SEES-X 担当宛て
 mail : sees@ncchd.go.jp

【報道関係の問い合わせ先】

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 企画戦略局 広報企画室 村上・近藤
 電話：03-3416-0181（代表） E-mail:koho@ncchd.go.jp